

平成 22 年 05 月 23 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007 ～ 2009

課題番号：19520195

研究課題名 (和文)

「文芸の共和国」としてのプランタン=モレトウス出版工場の総合的な研究

研究課題名 (英文) Plantin-Moretus Printing Office (Officina Plantiniana) as a Center of "the Republic of Letters"

研究代表者

宮下 志朗 (MIYASHITA SHIRO)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：60108115

研究成果の概要 (和文)：プランタン=モレトウス博物館にある、グルネー嬢自筆訂正『エッセー』(1595)を詳細に調査し、またプランタンの「家事日記」(未刊行)をすべて撮影して、解読作業に入っている。本研究と深く関わる、モンテーニュ『エッセー2』『エッセー3』(白水社)、ラブレール『第三の書』『第四の書』(筑摩書房)の翻訳も順調に出版することができた。

研究成果の概要 (英文)：Checking up on Montaigne, Essais (1595), with handwriting corrections of Mlle Gourney; taking photographic images of Plantin's Journal (unpublished until today); translation into Japanese of Montaigne (Tome 2 and Tome 3), Rabelais (Le Tiers Livre and Le Quart Livre)

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学

キーワード：出版の社会史、ルネサンス、フランス、ベルギー、世界遺産 (プランタン=モレトウス博物館)

1. 研究開始当初の背景

(1) 『本の都市リヨン』(1989, 晶文社, 大佛次郎賞)以来、一貫して文学作品を生産・流通・需要の側面から研究してきた。

(2) 2005年にトッパン・印刷博物館で「プランタン=モレトウス博物館展」を開催し、実行委員として努力したが、正にその年に、このプランタン=モレトウス博物館が「世界文化遺産」に指定された。

(3) 拙訳進行中の『エッセー』(1595)の編集にあたった、グルネー嬢による自筆訂正本の本格的調査の必要が痛感された。

(4) フランス人でアントウェルペンに移住して一大出版工房を築いたプランタンへの関心が急速に強まり、書簡や、日記(未刊)を通じて、この人物を描き出してみたいとの気持ちが芽生えてきた。

2. 研究の目的

申請者は16世紀研究者として、プランタン＝モレトゥス博物館となった、この16世紀の印刷・出版工房に所蔵されている資料類に以前から注目し、研究・翻訳に活用してきた。「世界文化遺産」指定を好機ととらえて、フランス人移住者が異国の地で立ち上げ、ヨーロッパ随一の存在となった、この工房をとりまく人的なネットワークを、「ユマニスム」にもとづく「文芸の共和国」のイメージにより包括的に研究して、描き出すことを目標とした。

3. 研究の方法

上に記したが、グルネー嬢による自筆訂正入りの『エッセー』(1595年版)や、未刊行で手書きのまま眠っている、プランタンの「家事日記」といった、貴重な資料を、撮影等によって読解可能なフォーマットにして、詠み込むこと。合わせて、すでに活字となっているプランタン「書簡集」を通して読みこんでいくという、きわめて地道な作業による。

4. 研究成果

- (1) 調査を生かした、モンテーニュ『エッセー2』『エッセー3』の翻訳刊行(白水社)
- (2) 関連するラブレール『第三の書』『第四の書』の翻訳刊行(筑摩書房)
- (3) フランソワ・フートハルス『フラマン語・フランス語俚諺対照集成』(1568)に、ラブレールへの言及がなされていることを新発見した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1件)

- ①宮下志朗「作者の権利, 読者の権利, そして複製の権利」『思想』岩波書店、2009年6月号、pp. 147-156. [査読なし]

[学会発表] (計 0件)

[図書] (計 11件、うち翻訳が6件)

- ①宮下志朗『本を読むデモクラシー』刀水書房、2009年、152pp. [単著]
- ②宮下志朗「19世紀における読書する女性の表象をめぐる」、田村俊作編『文読む姿の西東』慶応義塾大学出版会、2007年、pp. 99-116. [分担執筆]
- ③宮下志朗「図書館・書斎、そして印刷術」、

伊藤博明編『哲学の歴史4』中央公論新社、2007年、pp. 338-354. [分担執筆]

- ④宮下志朗『地域文化研究 III——ヨーロッパの歴史と文化』放送大学大学院教材、放送大学教育振興会、2007年、206pp. [共編者＝放送大学教授、草光俊雄]

- ⑤宮下志朗『いま、〈古典〉とはなにか』中島隆博・小林康夫編、UTCPBooklet2、The University of Tokyo Center for Philosophy(UTCP)、2008年、92pp. [討議記録で、パネリストとして参加]

-----[以下は、翻訳と長文の解説]

- ⑥宮下志朗：モンテーニュ『エッセー2』白水社、2006年、365pp.

- ⑦宮下志朗：モンテーニュ『エッセー3』白水社、2008年、255pp.

- ⑧宮下志朗：ラブレール『第三の書』筑摩書房、2007年、597pp. [解説は pp. 555-597]

- ⑨宮下志朗：ラブレール『第四の書』筑摩書房、2009年、654pp. [解説は pp. 601-654]

- ⑩宮下志朗：バルザック『グランド・ブルターシュ奇譚』光文社古典新訳文庫、2009年、256pp. [解説・年表は pp. 204-251]

- ⑪宮下志朗：ナタリー・デーヴィス『贈与の文化史——16世紀フランスにおける』みすず書房、2007年、324pp. [あとがきは pp. 265-276]

[産業財産権]

○出願状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

<http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/>

(東京大学総合文化研究科、言語情報科学専攻)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮下 志朗 (MIYASHITA SHIRO)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：60108115

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：